
脱出探偵白尖恭棄物語

恭也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脱出探偵白尖恭棄物語

【Nコード】

N5453F

【作者名】

恭也

【あらすじ】

自分の趣味（脱出と推理とPC操作とゲーム）以外は何もできない探偵と、武力行使ならナンバー1の刑事が紡ぎ出す物語。基本ギヤグ。

序章「独り言」(前書き)

この小説はBL要素があります。

ただしそれすら忘れるほどギャグがあります。

戦いもあります。

多少グロテスクな表現があり得る可能性が高いです。

それでもいい方のみご覧下さい。

序章「独り言」

脱出探偵。

脱出する事においては天才的な能力を發揮し、それなりに頭もよく、推理もできるがその他は本当に駄目な探偵。

人はやつのことを畏敬の念を込めて、

『鴉』

と呼ぶ。

鴉のようにしつこく、鴉のように周囲にとけ込み、鴉のように不気味。

それでいて頭がよく、難攻不落な罠すらも回避し、目的を果たす。

かなり優秀な伝説の探偵。

……やつはそんな生やさしいものじゃない。

鴉、なんかまだ可愛いほうだ。

やつは鷹でもなく、鷲でもない。

そんな高等な生物ではない。

そう、やつは。

ミルクキャンデーが好きで、甘いものが大好きで、ゲームとパソコンを四六時中いじっているような男。

しかも高校生。

高校生のくせに勉強もせず、青春もしない。

やつはそつ。

駄目人間の予備軍だ。

序章「独り言」(後書き)

貴方の人生における貴重な時間を、この小説を読むために使っただけだ。ただ、ありがとうございます。

感想などがあると、作者は舞い上がります。

本当に、本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5453f/>

脱出探偵白尖恭棄物語

2010年10月9日02時54分発行